いきいき行田人

自分のペースで　自分のスタイルで

羽鳥真生子（まいこ）さん（32歳・富士見町）

今月は、第62回埼玉県美術展覧会（以下県展）の洋画部門で、県議会議長賞を受賞した羽鳥真生子さんを紹介します。

羽鳥さんが、本格的に絵画を学ぶようになったのは、高校の美術部に入部してからでした。毎日4時間、さらに毎週土・日曜日には学校に泊り込みながら、繰り返しデッサンに励んだことで、基礎的な力が身に付き、3年生のときには、県展で入選するなど、着実に絵の才能を伸ばしていきました。

高校を卒業すると、美術の専門学校に進学。高校時代から興味を持っていた、自由で独特な世界観を生み出す現代美術を専門的に学びました。絵画や彫刻といった一つの分野にこだわらない、現代美術の奥深さに魅了された羽鳥さん。「ここで学んだことが、現在の作品作りにとても生かされています」と話します。

羽鳥さんの作品は、どれも独創的なものばかり。自分で描いた風景をデジタルカメラとパソコンを駆使しながら組み合わせ、一つの作品を描いていきます。「構図を決めるのに、パソコンを使って何回も組み合わせたり、切り取ったりする作業を繰り返すので、毎回疲れちゃうんです」と苦笑い。今回、受賞した作品「道」も同じ手法を用いて、完成させたものでした。「横断歩道の白線が垂直に交わっているところや、太陽が信号機に差し込むときにできる明るい部分と暗い部分の絶妙なバランスが大好きで、道路を題材にすることが多いです」と語る羽鳥さん。今回の作品は、身近な道路を意図的に変化させ、現実とは違う空間を表現したそうです。

羽鳥さんは今回の県展を「私の作品は自分でも独特だと思うので、この賞を受賞できたことは、本当に意外でした。評価してもらってとてもありがたいです」と語る一方、「賞を意識すると自分が納得できる作品が作れないことが多かったので、賞を意識しないで取り組むことが、正直とてもつらかったです」と振り返ります。それでも「絵を描くことはやめられません。私が生きるために必要なことですから」と少し照れながら話してくれました。

目標を尋ねると、しばらく考えた羽鳥さんは「今の状態が続くといいですね」とにっこり。妻として、1児の母として忙しい毎日を送る中で、羽鳥さんは自分のペースで、自分らしい絵をこれからも描き続けます。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

俳句

谷郷　大谷　峯生
戻り花じっと見て居る反抗期

長野　内山　計江
繰り出して見たくなる日や若葉風

須加　藤野　治男
薫風（くんぷう）や帽子を脱いで深呼吸

荒木　島田　香子
OB会断る電話梅雨寒し

持田　中野　諄子
夏鳥の響きあふるる利根の川

持田　丸山　麟一
牡丹散る無情の雨の侘（わび）しさよ

長野　吉野　らん
薫風に負けじと泳ぐ池の鯉

富士見町　森　節子
麦秋を迎えし友の満ちた顔

城南　飯野　里子
神さびる児玉の杜や笹の秋

佐間　矢澤喜美江
一輪の都忘れに色さみし

桜町　吉岡　守子
花むしろ今宵の空に北斗星

向町　渡月　峯
しっとりと雨にうたれるきゅうり苗

城南　橋本千枝子
老残（ろうざん）と云はれたくなし白牡丹

佐間　須永　節子
伝説の古墳に燃ゆる新樹かな

城南　町田ツギ子
公園のつつぢに見せられ帰路急ぎ

（木島　斗川　監修）

「すてきなバラの鉢カバー」
（DECOクレイクラフト）
後藤　幸代（谷郷）

はじめまして

平成23年
7月生まれのおともだち

林　優太朗（ゆうたろう）ちゃん（長野）
父・宇男さん　母・綾子さん
平成23年7月15日生まれ
「毎日笑顔をありがとう」

吉野　海都（かいと）ちゃん（南河原）
父・統一さん　母・佐江子さん
平成23年7月6日生まれ
「我が家の癒し☆ボーイ☆です!!」

河野　美空（みあ）ちゃん（小敷田）
父・岳史さん　母・友美さん
平成23年7月14日生まれ
「優しいこに育ってね♡」

林　佑永偉（ゆないい）ちゃん（前谷）
父・陽二さん　母・真麻さん
平成23年7月8日生まれ
「一緒にたくさん笑おうね♡」

坂田　愛利（あいり）ちゃん（佐間）
父・和憲さん　母・典子さん
平成23年7月24日生まれ
「我が家の癒し♡」

平成23年9月生まれのお子さんを募集します

○7月2日㈪～31日㈫に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当（内線318）
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、8月2日㈭午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

さわやかサークル

行田クラブ
～ソフトボールで深まるきずな～

同クラブの皆さんを紹介します。

同クラブには、市内の中学1年生から3年生までの女子生徒が所属しています。小学校時代にソフトボールや野球を経験している彼女たちの「もっとソフトボールをやりたい」という熱い思いから、平成23年4月にチームが結成されました。現在は10人のメンバーで、監督とコーチの熱心な指導のもと、毎週土曜日の午後と日曜日の午前に活動しています。

「基本をマスターして、高校でもソフトボールを続けてほしい」と語る監督の浅尾昌美さん。ソフトボールの基礎となるキャッチボールを重視している同クラブでは、練習の始めはもちろんのこと、締めくくりにも必ずキャッチボールを行います。相手の胸に向かって、捕りやすいボールを投げることで、自分の制球力を養うだけでなく、チームメートを思いやる心がはぐくまれていくそうです。一球一球に集中して行う練習で、技術面も精神面も日々成長している皆さんの姿は、はつらつとしていました。

また、同クラブが目指すスタイルは、「打ち勝つ」ソフトボール。昨年9月に行われた第10回埼玉県中学生大会では、自慢の強力打線が爆発し、見事準優勝を果たしました。「練習は決して楽ではありませんが、かけがえのない仲間たちと一緒に結果を残せて本当にうれしいです」と選手たちはほほ笑みます。

ソフトボールを通して、学校や学年を超えた固いきずなを築いている同クラブの皆さん。今年は昨年より好成績を残すことが目標だそうです。ソフトボールに興味のある女子中学生の皆さん、彼女たちと一緒にさわやかな汗を流してみませんか。

▼問い合わせ　吉岡☎090－8841－5910